

The 3rd Town development plan of Okada community

the 3rd

The 3rd Town development plan
of Okada community

Move forward together

岡田コミュニティ 第3期まちづくり計画

心豊かな子どもが育つまち

安心して暮らせるまち

活力みなぎるまち

健康に暮らせるまち

みんなでつくるまち

住み続けたいまち おかだ



岡田コミュニティ
第3期まちづくり計画

岡田コミュニティ

〒761-2401 香川県丸亀市綾歌町岡田下516-1 TEL:0877-86-3001
<http://okada-community.main.jp/> mail: okada-center@md.pikara.ne.jp



はじめに

岡田コミュニティは、平成23年に『第1期まちづくり計画』、平成28年に『第2期まちづくり計画』を策定して、基本理念である「住み続けたいまち おかだ」に向けた各種事業を実施してきました。第1期、第2期のまちづくりの取り組みは、住民の皆様のご協力のおかげで、他地域からも高い評価を得るようになってきています。

このたび、この取り組みをさらに進めて、より住みやすい岡田地区をつくっていくため、第3期まちづくり計画を策定することといたしました。

岡田地区は丸亀市全体の平均よりも早く高齢化が進んでいます。持続可能なまちであり続けるためには、今以上に助け合いのまちづくりを進めていかなければなりません。

そこで、新しいまちづくり計画の策定にあたっては、『持続可能性』をキーワードにして、岡田コミュニティ役員、コミュニティ関係団体や学識経験者、行政職員からなる「おかだ未来会議」を開催し、今後のまちづくりについての在り方についての議論を深めました。また、まちづくりについての住民アンケートも実施し、これからのまちづくりについての意見を求めることといたしました。

多くの皆様からいただいたご意見をもとに、令和3年度から5年間の事業計画である第3期まちづくり計画を策定することができました。計画策定に向けて貴重なご意見を多くいただきました関係の皆様はこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

これからも「住み続けたいまち おかだ」を基本理念として、丸亀市と協力しながら第3期まちづくり計画に基づいた事業を実施し、助け合いのまちづくりを進めてまいります。

今後とも皆様のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

岡田コミュニティ
会長 土岐正宏

住み続けたいまち
おかだ



本編

I コミュニティをとりまく社会情勢	1
II 第2期まちづくり計画の事業評価	5
III まちづくりアンケートから	11
IV これからのまちづくり	21
1 住み続けたいまち おかだ	
2 まちづくりの目標	
3 新しい部の構成 ～持続可能なコミュニティ体制のために～	
4 計画事業	

資料編

おかだ未来会議（第3期まちづくり計画策定委員会）	
委員一覧	30
岡田地区の概要	31
位置と現状	
歴史	
数字で見る岡田地区	
公共施設	
神社・仏閣	
古代の遺跡	
丸亀市指定遺跡	
岡田のため池一覧	37
年中行事	38
岡田の歴史年表	39
岡田コミュニティの組織	41

I

コミュニティを取り巻く
社会情勢

岡田地区の高齢化率は、2010年には28%でしたが、10年間で約7ポイント増加し、2020年現在では35.1%になっています。

2045年には、丸亀市全体でも高齢化率が35%程度まで高くなる見込みですが、岡田地区の高齢化率はかなり高い状況です。高齢化がかなりのスピードで進んでいる現状から考えて、これまで以上に助け合いのまちづくりを進めていかなければなりません。



I コミュニティを取り巻く社会情勢

日本各地で、過疎化や高齢化、核家族化や個人の価値観の多様化などによって、地域を支える人材が不足し、住民同士のつながりが希薄になってきている例が見られます。これにより、地域コミュニティの機能が弱まり、地域によっては次のような様々な問題が顕在化しています。

- ・ 高齢化・独居化による孤独死の増加
- ・ 地域で守り育てる子育て機能の低下
- ・ 火災や地震等に対する地域防災機能の低下
- ・ 運転免許返納に伴う移動手段の喪失
- ・ 犯罪や事故に対する地域防犯機能の低下
- ・ 祭りや年中行事の継続困難による地域文化の衰退
- ・ 行政からの情報伝達など連絡調整機能の低下
- ・ 若年層の減少による地域産業の衰退



丸亀市内には 17 コミュニティがありますが、少子高齢化が進むにつれ、他地域で顕在化している問題が出てくる可能性があります。

岡田地区はどうでしょうか。

自治会加入率は約 80%（親子別世帯であっても親が代表して自治会に加入しているものまで含めると実質約 90%）で、市内で最も高い加入率です。

自治会という組織への参加の度合いは別にしても、多くの住民が昔からある自治会に参加して地域の文化を支えていることは確かです。

多くの住民が加入している自治会ですが、岡田地区も高齢化が進むと、今と同じ活動ができるかどうかはわかりません。

岡田地区の高齢化率は、2010 年には 28%でしたが、10 年間で約 7 ポイント増加し、2020 年現在では 35.1%になっています。2045 年には、丸亀市全体でも高齢化率が 35%程度までに高くなる見込みですが、岡田地区の高齢化率はかなり高い状況です。



高齢化がかなりのスピードで進んでいる状況から考えて、これまで以上に助け合いのまちづくりを進めていかないとはいけません。

年金支給開始時期の引き下げに伴い、全国的に就労している高齢者が増加しています。65 歳まで働くのが当然のようになり、それ以上の年齢でも就労している人が今後増えてくることでしょう。



岡田地区でもその状況は同様であると考えられます。第一線を退き、地域活動に費やせる時間を多くもてる住民は次第に減少するのは明らかです。地域活動は高齢者が中心となり、少ない支え手ではこれまで同様の事業はできなくなることが予想されます。

したがって、今後のまちづくり計画策定にあたっては、事業の取捨選択は避けられません。岡田地域が継続的に発展していけるように、丸亀市が策定した「丸亀市総合計画」をはじめとする各種の計画と照らし合わせた事業となるような計画をつくり、行政と協力しながら実行できるようにすることを基本とします。

* 高齢化率 総人口に占める 65 歳以上の人口の割合





綾歌三山

丸亀の南側にそびえたつ城山・猫山と、綾川町にまたがる大高見峰が連なっているため、綾歌三山と呼ばれています。四季折々の豊かな自然と風景を楽しめ、数々の動植物とふれあえます。

城山には、戦国時代に長尾氏の居城だった西長尾城跡があります。また城山の頂上からは瀬戸内海、丸亀平野、讃岐富士などを一望できる絶景パノラマが広がります。
(丸亀市ホームページより抜粋)



岡田コミュニティセンター上空約100mから見た丸亀平野

II

第2期まちづくり計画の 事業評価

第2期まちづくり計画では、以下の5つの目標を掲げて各種の事業を行ってきました。

- ①安心して暮らせるまち
- ②助け合い、支え合うまち
- ③ひとがいきいきと輝くまち
- ④笑顔あふれるこどもが育つまち
- ⑤環境や教育、文化を大切にするまち

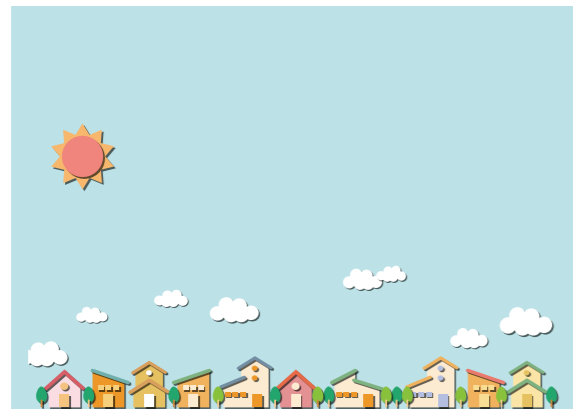
II 第2期まちづくり計画の事業評価

第2期まちづくり計画では、以下の5つの目標を掲げて各種の事業を行ってきました。

- ①安心して暮らせるまち
- ②助け合い、支え合うまち
- ③ひとがいきいきと輝くまち
- ④笑顔あふれる子どもが育つまち
- ⑤環境や教育、文化を大切にするまち



1 安心して暮らせるまち



第2期まちづくり計画では、防災、犯罪防止、事故防止に関する事業を実施してきました。

自主防災会を岡田コミュニティ会則に位置づけ、啓発活動や防災システムづくりに着手することができています。また、自治会の協力を得て岡田地区内全域の安全点検を実施しました。点検結果を元にして、行政へ対応を促すことができ、地域の安全レベルの向上につなげることができました。



規模の大きな地震が近い将来発生することが懸念されます。また、大雨などによる災害も起きる可能性があります。

災害発生に備えて住民への啓発活動を進めるのはもちろんのこと、人的、物的な備えを進めていく必要があります。



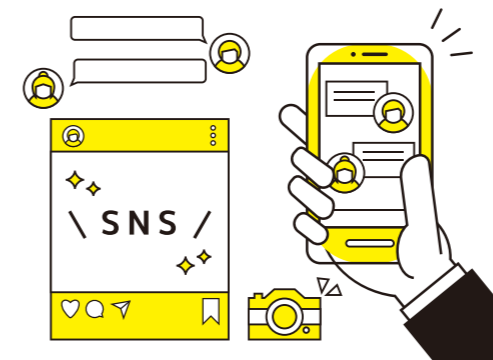
2 助け合い、支え合うまち

第2期まちづくり計画では、高齢者等の支援、福祉関係者交流、域内情報の発信を中心とする事業を実施してきました。

「助け合いのまちづくり勉強会」を繰り返し開催して議論を深め、岡田地区で進めるべき事業として『移動手段の確保』のための取り組みを取り上げることとしました。

令和元年10月から、丸亀市の高齢者等移動手段確保モデル事業に応募して「移動サービスおでかけ便」を運行しています。

利用者からは高い評価を得ている事業ですが、ボランティア運転手を継続して確保することができるかが事業継続の鍵です。



年間4回発行のコミュニティだよりに加えて、webページ、Facebook、LINE公式アカウントを活用した情報発信に努めてきました。今後も、アナログとデジタルの両方を活用する情報発信をすることで、より多くの住民に情報を届けていくことができると思われま。

コミュニティまつりなどのイベント開催時の運営ボランティアとして中学生にも参加を呼びかけてきました。

若い世代は、将来の地域づくりの担い手です。ボランティアの活動を通して、豊かな人間形成にもつながることが期待できます。

今後も小中学生の段階からボランティアを経験できるような場の設定を考えていきます。



3 ひとがいきいきとかがやくまち

第2期まちづくり計画では、健康づくり、認知症予防交流の場づくり事業、地域おこし事業などを実施してきました。

高齢化が進む現在、介護予防や認知症予防は大切な課題です。丸亀市包括支援センターや健康課の協力を得て認知症予防講座を開催してきました。関心の高い内容であるだけに毎回多くの参加を得ることができています。



交流の場づくりとして毎週金曜日の午前中、コミュニティセンターの一部屋を利用して「だれでもカフェ」をはじめたところ、毎回20人から30人の利用者で賑わいました。平成28年の開始からこれまでに、延べ2000名以上の利用があります。

だれでもカフェは平日の午前中という時間的な制約もあって、主として生活時間にゆとりのある高齢者層が多く利用しています。



子どもがコミュニティセンターを利用することが増えたことに伴って、子どもの親世代がコミュニティセンターに足を運ぶことも増加しています。今後コミュニティセンター内に交流スペースを設けることで、幅広い年齢層の交流の場となることが期待できます。

にぎわいづくり、交流の場のひとつとして、夏まつり（おかだ kira² 夏まつり）を開催したところ、毎回1500名を超える来場者を迎えることができるようになりました。まつりのターゲットを「子ども」としたことで、岡田地区内の子どもから高齢者までの幅広い世代の参加者を得ることができただけでなく、他地域からも多くの参加があるまつりに成長しました。

健康増進教室を開催したり、健康ウォーク道の紹介をしたりして健康維持に関する啓発を行いました。健康維持に関する行事に



は多くの参加がありますが、圧倒的に女性が多いので男性の参加を促すことが求められます。

農業振興と交流を兼ねた「おかだマルシェ」開催に向けた準備を進めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未だ開催できていません。小さな規模でも、定期的開催できるような方策を検討していきます。

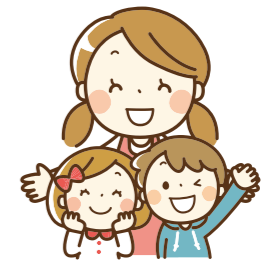


4 笑顔あふれるこどもが育つまち

第2期まちづくり計画では、子育て支援事業、保育所・こども園・小学校とのふれあい交流事業を実施してきました。

子育てについて考え直すきっかけとなることを願って、小学校の学習参観を利用して「親塾」を開催しました。

こういう事業を企画するには、社会や学校の課題を結び付けて情報提供できる力が必要です。学校と地域を結び付ける役割をするコーディネーターの設置が望まれるところです。



夏休みこども教室は、岡田小学校児童の3分の1が参加する人気のある事業になっています。長期休業中の居場所づくり、学校外の体験学習としてニーズが高い事業ですので、他団体や外部講師との連携で今後も続けていくべき事業であると思われます。

丸亀市は、地域全体でこどもの成長を支える体制を整えるため、コミュニティスクールの制度を市内全域に導入します。岡田コミュニティでは、すでに、あいさつ運動やこども安全パトロール、自然体験交流などを通じて、地域がこどもの成長を見守る体制ができてきていますが、今後ますます地域全体でこどもの成長を支えていくことが求められます。

令和元年、岡田幼稚園跡地公園が丸亀市によって整備され、「岡田ふれあい広場」として利用できるようになりました。誰でも利用できる公園として維持管理をしながら、防災活動やイベント等にも活用して有効利用を図ります。



5 環境や教育、文化を大切にすまち



第2期まちづくり計画では、歴史文化伝承事業、生活環境改善事業を実施してきました。

岡田地区の歴史や地理について、「岡田学講座」という形で、地域住民に紹介する教室を開催しました。

『ふるさと探訪』には毎回多くの参加があります。点と点をつないで歩き、岡田の歴史や地理について理解を深めるものです。さらに、座学の講座を通してふるさとおかだを見直すきっかけづくりを

提供してきました。まとめた内容は、コミュニティのホームページからもダウンロードできるようにして、誰でも活用可能な形になっています。

年間2回、春と冬に岡田地区内の一斉清掃日を設けて環境美化に努めることができました。環境美化は、ゴミの分別やポイ捨て防止といったマナーの積み重ねです。環境美化について、今後も啓発を進めて誰もが住みやすいまちにしていかなければなりません。

第2期まちづくり計画では、目標に向かって広範囲に事業を進めてきました。新たに取り組んだ事業が軌道に乗って、多くの住民に支持されているものもあります。

一方で、多くの事業を計画したため、十分な取り組みができなかったものもあります。事業を見直していく中で、改善策を検討する必要があると思われます。

岡田コミュニティは、事業に関わる多くのボランティアスタッフの献身的な取り組みにより、市内17コミュニティの中でも先進的な地域として高い評価を受けています。しかし、事業に携わるスタッフの負担が大きくなりすぎると、今後同じような取り組みが継続できるとは限りません。持続可能な組織であるためには、幅広い世代から協力を得ることが欠かせません。今後、幅広い世代で地域を支えていく体制をつくっていく必要があります。

他人を思いやる一人一人の小さな力の積み重ねがコミュニティ活動です。こんなことができたらいいな、こんなふうになったらいいなというアイデアを出し合い、それを継続できる形にすることで、地域を支える大きな力になっていくと考えます。



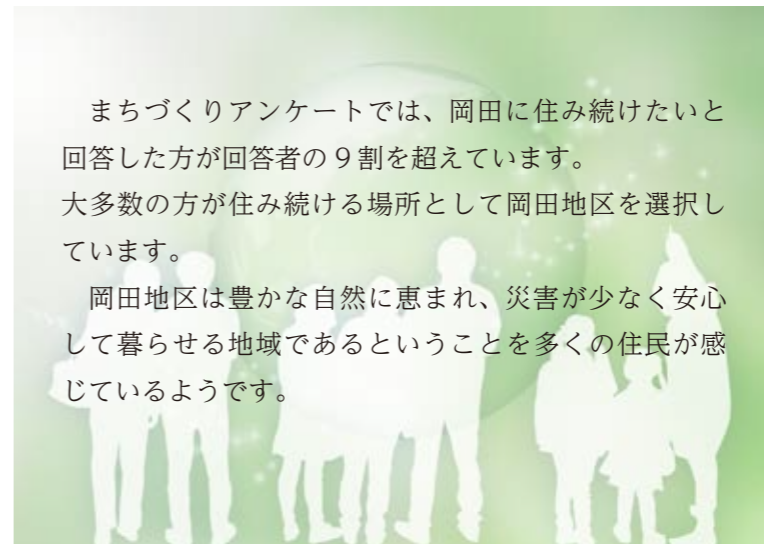
III

まちづくりアンケートから

まちづくりアンケートでは、岡田に住み続けたいと回答した方が回答者の9割を超えています。

大多数の方が住み続ける場所として岡田地区を選択しています。

岡田地区は豊かな自然に恵まれ、災害が少なく安心して暮らせる地域であるということを多くの住民が感じているようです。

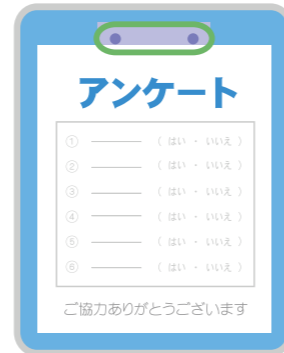


III まちづくりアンケートから

新たなまちづくり計画策定の参考とするため、まちづくりアンケートを実施しました。

岡田地区内の各自治会長をはじめ、保育所・子ども園・小学校に通う子どもの保護者、コミュニティ関係団体の長、コミュニティ役員など500名にアンケートへの協力を依頼したところ、期日までに170名の方から回答がありました。

回答率 34% (自治会長 71名、その他 99名)



幅広い年齢層からの回答

今回のアンケートは、20代～70代までの幅広い年齢層からの回答がありました。自治会長は男性が約6割ですが、自治会長以外の回答者の割合は約7割が女性でした。地域のことに関心をもつ女性が多いことがうかがえます。

回答は、岡田上下東西の全部の地域からで、全体の傾向を示す結果であろうと推測できます。

岡田に住み続けたい

アンケートでは、岡田に住み続けたいと回答した方が回答者の9割を超えています。大多数の方が住み続ける場所として岡田地区を選択しています。

岡田地区は豊かな自然に恵まれ、災害が少なく安心して暮らせる地域であるということも多くの方が感じているようです。

一方、商店が少なく買い物に不便を感じたり、夜間にまだ暗い場所が多く防犯上の不安を感じたりすることを問題点としてあげる方が多いです。

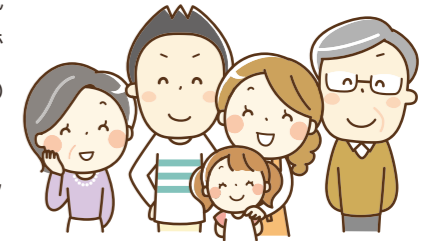
年齢層の高い方からは、地区内はアップダウンが多く、自動車がないと移動に不便といった回答が多く、運転免許証返納後の移動手段の確保が生活に直接結びつく大きな課題としてあげられます。

住民の生活満足度を上げることが、人口減少をくい止め、地域活性化につながるものと思われませんが、行政の積極的な関わりが欠かせません。

地域で子どもを育てる

心豊かな子どもを育てるのは大人の責務です。岡田の地域で育った子どもがたちは、将来この地域を担う大切な存在です。地域みんなで子どもたちの成長を支えることは、地域の存続発展につながると思われれます。

心豊かな子どもを育てるために、地域住民が望むこととして次のような点がアンケートから読み取れます。



まず、
①地域と学校が連携を密にして地域で子どもを育てることです。

保護者層では約64%が回答しています。直接子どもと関わる機会が少ない世代でも約半数が地域で子どもを育てることが大切だと回答しています。つまり、これまで以上に学校等と地域の関係を深めていく必要があるということです。

①については、丸亀市が令和3年度から地域の中で子どもを育てることを目的としたコミュニティスクール制度を開始しますので、その中で具体的な議論が進められることを期待します。

さらに、
②子どもが安心して遊べる場を整備する
③若者が地域に定住できるような魅力ある地域づくりをする が回答の上位にあります。

②③は、行政として進める総合計画の中で積極的に押し進めていただきたい事項としてあげたいと思います。



防災に関する情報は、テレビ、ラジオ、インターネットから

岡田地区の住民が、ふだん防災に関する情報をどのように集めているかをたずねました。その結果、最も多いのがテレビ・ラジオで次に多いのがインターネットです。年齢層が下がると、インターネットの割合が高くなります。

今にも災害が発生しそうな場合の情報の集め方は、年齢に関係なくインターネットの割合が高くなります。

年齢層が高くてもスマホを使ってインターネットに接続する人が増加している現状を考えると、地域の情報をタイムリーに発信できるインターネットを積極的に活用するべきです。

地震が起きたときに避難したい場所

地震が発生したとき、避難を考える場所としては、年齢層に関わらず

1. コミュニティセンター（約7割）
2. 岡田小学校（約6割）です。

自治会の集会場と回答した方もいますが、少数にとどまっています。



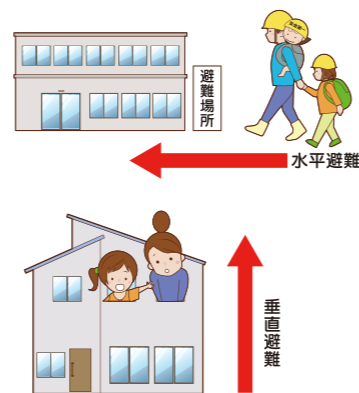
避難する場所としては、広い敷地で、より安全を確保できると考えられる場所を選定しているものと考えられます。

大きな地震発生時に、コミュニティセンターや小学校に避難者が多く集まるということを前提に対応を考える必要があります。

大雨発生時には、垂直避難 約5割

大雨で避難すべき状況になったとき、避難したい場所をたずねました。

自宅の2階以上の場所と回答した人が約5割。垂直避難を考える人が多いことがうかがえます。それでも、コミュニティセンターや小学校を避難先を選ぶ人も多く、地震の際と同様に受け入れ体制を整える必要があります。



災害に強いまちづくりのために

災害に強いまちをつくるために、コミュニティが力を入れるべきことをたずねました。

最も多かった回答は、年齢層に関わらず『災害対応の物資備蓄』でした。

また、地区内の防災マップ製作という回答が多く、防災に関する関心の高さをうかがい知ることができます。



さらには、子どもから大人までいろいろな目線で岡田地区の危険箇所を点検して改善につなげるという回答も多く見られました。幅広い年代層と一緒にまち歩きをして防災マップづくりに生かすという方向性が見えてきます。

その他、保護者層から意見が多かったのは災害発生時の SNS を利用した情報発信です。積極的な活用方法を検討していく必要があります。

平常時に住民に対して防災に関する情報提供を求める意見も多く見られます。

大規模災害が日本各地で多く発生するようになった現在、日常的に丸亀市あるいは岡田地区内の防災情報を求めているものと考えられます。



避難訓練や情報伝達訓練などの訓練を求める意見が、年齢層の高い人よりも低い層から多く出てきていることから、防災に関する関心が幅広い層に広がっているものと推測できます。今後の事業を計画していく上で、方向性が見えてくるアンケート結果となりました。



地域をよりよくしたい

私たちがこのような団体は、ボランティアによる活動が基本です。ところが、コミュニティ活動に携わる人の年齢が高齢化しており、負担が増しているのが現状です。将来は、現在と同じような活動が続けられるとは限りません。

そこで、今後のコミュニティ活動を担っていこうとする意志がどれくらいあるのかをアンケートで調査しました。



その結果、年齢層に関わらず「自分の力が生かせる分野で協力したい」「時間が許せば協力したい」「将来は協力したい」と考える人が8割を越えていることが明らかになりました。

ところが、進んでボランティアとしてなかなか関わっていこうとはしないのが現実です。

協力したいという意志があるのに、自からは出てこない現状をどうとらえるべきでしょうか。



仮に何らかの得意分野をもっていても、それがコミュニティ活動にどのように生かしていけるのかが不明であるから、一歩踏み出すことを躊躇しているのではないかと考えるのが自然ではないでしょうか。だとすれば、コミュニティセンターで得意分野を生かせる場を提供して関わりをもってもらおうようにするのも一つの方法であると考えます。

小さなことであっても、一歩踏み出すきっかけになることを考えていく必要があります。

健康維持に関心が高い

健康維持のために心がけていることは、年齢層に関わらず

- 1 定期的に健康診断を受ける
- 2 暴飲暴食をしないように食生活に気を付ける
- 3 何事も前向きに考えてストレスをためないように心がけるという回答が多かったです。



さらに、ウォーキングやランニングをすることを心がけている人が多いことも分かりました。岡田地区の住民は、定期検診と自己管理をしながら健康維持を図っているようです。この傾向は大変好ましいことであり、今後もこの傾向が続くような働きかけを続けていくべきであると考えられます。



高齢になっても安心して暮らせるまち

都会と異なり、公共交通機関の利便性が低い地域では自ら運転する自動車の利用が必須になります。

岡田地区は自動車が日常生活の足となる重要な移動手段です。この移動手段を失ったとたん、それまでのように自由に移動できる生活が遠い存在になるのが現実です。



これは、アンケートにもはっきり現れており、運転免許証を返納しても困らないように移動支援サービスの充実を求める声が多くなっています。特に、年齢層が高くなるとその傾向は強くなります。

岡田コミュニティは、令和元年10月から「移動サービスおでかけ便」を運行していますが、今後こういったサービスの需要はますます高くなることが考えられます。

ここで問題なのは、移動サービスに関わる人の確保です。担い手を確保することができなくなれば、今のサービスを提供することは困難になります。担い手確保のための方策は行政と一緒に考えていきます。

他に、コミュニティバスの便数を増やすとか買い物代行や家事代行サービスの充実を図るといった回答も多く見られました。これらは多額の経費がかかるものであったり、民業との競合があったりする場合があるので十分検討が必要と思われる。

アンケートには『困りごとがあってもすぐに相談できる体制を整えること』の回答が多く見られました。

コミュニティセンターは、くらし案内所としての機能があります。各種サービスを紹介するなどその機能を充実させるとともに、積極的に利用してもらえるように広報活動を行うことが求められていると考えます。

また、アンケートからは『隣近所と親しくつきあい、助け合える関係をつくっておく』ことが、高齢になっても安心して暮らせると考えるポイントだと多くの人が考えていることがわかります。

自治会の活動維持を図る取り組みは、高齢になっても安心して暮らせるまちづくりには欠かせません。

自分の住む地域の中で、ゆるやかな関係が維持できるか否かが、安心して暮らせるまちになるかどうかを決定づけることになると思われます。



生涯学習の推進



かつては、社会教育と呼ばれて受け身の参加となることが多かった学校外の学習活動は、学習者主体の生涯学習という呼び名になっていきました。

岡田コミュニティでは、生涯学習を推進するため、『暮らし生き生き生涯学習』というタイトルの生涯学習クラブ紹介冊子を毎年作成して地区内に配布しています。

多くのクラブが毎週、隔週といったサイクルで30近い数のクラブが活動をしています。既存のクラブには、これまで同様に活動の紹介をしたり、発表の機会を設けたりして生涯学習の後押しを進めることが重要と思われる。

既存のクラブには、技術を磨いていく内容のものがあり、これから参加しようとする人にとって少しハードルが高い場合もあります。そこで、得意な分野で活躍ができる人を発掘して、初心者でも参加できる新たな生涯学習講座ができるような取り組みも進めていきます。

さきに述べたように、使用料減免等による優遇措置をとるなど新たな取り組みを応援する仕組みが必要であると思われる。

年齢の高い層では、スマホ・タブレットやパソコン、ヨガ、軽スポーツ、料理、脳トレへの関心が高いようです。若年層でも料理、ヨガ、軽スポーツへの関心が高いことがアンケートからうかがえます。

既存のクラブにはないもので、ニーズが高いものについて新たな取り組みを進めることで、コミュニティ活動への関心を高めることが期待できると考えています。



自治会活動の維持・発展

岡田地区の自治会加入率は、実質約9割です。アンケート結果から、自治会のある地区は昔からずっと続く組織であるため、順番で世話役がまわってくるという煩わしさを感じながらも、若い世代にもそれなりに受け入れができています。

自治会存続について、まだ大きな問題なく運営できているという回答も多く見られますが、地区によっては高齢化が進んで世話役の引き受け手が減ってきているという問題を指摘する声もあります。



実質自治会加入率9割である状況を維持するためには、世代間のゆるやかなつながりを求めていくことが、自治会存続のポイントとなるのではないのでしょうか。

宅地開発により団地ができあがって時間がたってからは、自治会設立に大変な困難をきたすのはこれまでの状況から考えて明らかです。

宅地開発により、他から転入する場合は開発業者に対して行政から自治会設立に向けた強い働きかけが必要と思われる。

まちづくりアンケートから今後の方向性が見えてくるものがあります。コロナ禍で思うに任せない状況が続いていますが、他地域のコミュニティ活動も参考にしながら、私たちの新たな取り組みを構想していきます。



IV

これからのまちづくり

新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの社会生活のあり様が大きく変化しました。こういう変化の大きな時代であるからこそ、人と人とのつながりを大切にして、みんなで支え合って生活できる地域をつくっていかねばなりません。

そこで、これからも『住み続けたいまち おかだ』を、めざすまちの姿として引継ぎ、支え合いのできるまちづくりを進めます。



IV これからのまちづくり

1 住み続けたいまち おかだ

これまでのまちづくり計画では、この地に生まれ育った人も他の地域から移り住んできた人も、皆が住んでいてよかったと思えるように、『住み続けたいまち おかだ』を、めざすまちの姿として各種事業に取り組んできました。

第1期、第2期のまちづくり事業を通じて、めざすまちの姿に一步近づけたものと思います。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの社会生活のあり様が大きく変化しました。こういう変化の大きな時代であるからこそ、人と人とのつながりを大切にして、みんなで支え合って生活できる地域をつくっていかねばなりません。



そこで、これからも『住み続けたいまち おかだ』をめざすまちの姿として引継ぎ、支え合いのできるまちづくりを進めます。

2 まちづくりの目標



よりよい生活が送れるように、ハードとソフトの両面から改善を図ろうとする工程全体が『まちづくり』です。これまで同様に、私たち地域住民と行政が協力することでまちづくりを前進させたいと考えます。

インフラの整備や各種支援制度の創設などは行政でなければできません。一方、地域の課題をよく知り、人と人のネットワークを生かした課題解決ができるのは、わたしたち地域住民です。

双方の力を生かしたまちづくりを進めることが、生活環境向上につながり、住みやすい岡田地区につながると思われま

す。そこで、丸亀市の均衡ある発展のための『丸亀市総合計画』に取り上げられている5つの基本方針を第3期まちづくり計画の基本方針とし、行政の取り組みと岡田コミュニティの取り組みをリンクさせていくこととします。



岡田コミュニティのまちづくりの目標

I 心豊かな子どもが育つまち

地域で子どもを育てる環境整備を進めて学校支援の輪を広げ、丸亀市と協力しながら、心豊かな子どもが育つまちをめざします



II 安心して暮らせるまち

防災や防犯意識を高める啓発活動を行うとともに、災害に備える活動を行い、丸亀市と協力しながら安心して暮らせるまちをめざします



III 活力みなぎるまち

地域のにぎわい・交流の場づくり、ふるさとを見直す場づくりを通して、丸亀市と協力しながら活力のある元気なまちをめざします



IV 健康に暮らせるまち

心とからだの健康づくり、生活環境改善・生活支援活動を通じて、丸亀市と協力しながら住民一人一人が生き生きと暮らしていけるまちをめざします



V みんなでつくるまち

それぞれの興味・関心に応じて学び続けられる機会や個々の力を地域に生かせる機会を設けるなどして、丸亀市と協力しながら住民一人一人が生きがいをもって暮らすことのできるまちをめざします



3 新しい部の構成 ～持続可能なコミュニティ体制のために～



平成 17 年（2005 年）3 月 22 日に、旧丸亀市、旧飯山町、旧綾歌町が合併して現在の丸亀市が発足しました。岡田コミュニティも同年 4 月に発足し、15 年が経過しました。

岡田コミュニティ発足当時 60 歳代前半だった中心活動メンバーも 70 歳を超えるようになりました。今後のコミュニティ活動を考えたとき、『持続可能』な体制をどのようにしていくかは大変重要な問題です。

第 3 期まちづくり計画策定にあたり、持続可能な組織であるように事業内容の見直しを行う必要性があります。

これまでの事業評価、まちづくりアンケート、おかだ未来会議で出た意見等を取り入れて、各事業の中心となる部を再構成することとしました。

文化広報部	地域福祉部
地域文化振興・生涯学習推進・広報	地域福祉・介護予防
生活環境部	生活安全部
地域環境向上・緑化推進	防災・防犯・交通安全
健康増進部	地域交流部
健康づくり・生涯スポーツ	地域交流・世代間交流
こども未来部	まちづくり委員会
青少年健全育成・人権啓発 保育所・こども園・小学校との連携	各部横断的な事業全般



4 計画事業

まちづくり計画は、5 年間という長期間の事業活動の元になる基本計画です。具体的な事業については、各年度の事業評価をもとに翌年度の細かい事業を計画することとします。

I 心豊かな子どもが育つまち

地域で子どもを育てる環境整備を進めて学校支援の輪を広げ、丸亀市と協力しながら、心豊かな子どもが育つまちをめざします



①保育所・こども園・小学校とのふれあい交流事業

花づくりや自然体験、昔遊びなどの交流を進めます

たとえば、子どもと一緒に花を植える活動、リサイクル工作、栗拾い、昔の遊び など

【想定される関係部署】

生活環境部、地域交流部、こども未来部、保育所、こども園、小学校 市役所など

②学校外活動支援事業

他団体と協力して、夏休み子ども教室などの学校外体験活動を提供します

たとえば、科学体験教室、工作教室、天体観測など体験重視の教室 など

【想定される関係部署】

まちづくり委員会、文化・広報部、岡田愛育班、綾歌三山愛好会、小学校、市役所 など

③学校教育支援事業

地域と学校が力を合わせて子どもを育てるための学校支援活動を行います

たとえば、学校運営協議会へ地域の意見を届ける、学校支援ボランティアによる学校支援

【想定される関係部署】

こども未来部、地域交流部、まちづくり委員会、長生会、小学校、市役所など



II 安心して暮らせるまち

防災や防犯意識を高める啓発活動を行うとともに、災害に備える活動を行い、丸亀市と協力しながら安心して暮らせるまちをめざします



①自主防災事業

地震や大雨等の自然災害に対応するシステムづくりを進めます
たとえば、防災マップの製作、避難所運営訓練、防災用品備蓄 など

【想定される関係部署】

岡田地区自主防災会、まちづくり委員会、警察署、消防署、市役所 など

②交通安全・事故防止に関する事業

行政・警察と協力して、犯罪や交通事故を防止する取り組みを進めます
たとえば、特殊詐欺防止のための防犯教室、交通安全教室、子ども安全パトロール、地区内安全点検 など

【想定される関係部署】

生活安全部、警察署、防犯協会、交通安全協会、市役所 など

III 活みなぎるまち

地域のにぎわい・交流の場づくり、ふるさとを見直す場づくりを通して、丸亀市と協力しながら活力のある元気なまちをめざします



①交流の場づくり事業

関係団体と協力しながらイベントを開催して交流の場をつくり、地域のにぎわいにつなげます

たとえば、おかだコミュニティまつり、おかだkira²夏まつり、おかだマルシェ、演奏会 など

【想定される関係部署】

まちづくり委員会、地域交流部、岡田大好き隊、商工会、JA など

②地区内情報の発信事業

地域の課題やコミュニティの活動内容を広く情報発信します

たとえば、コミュニティだより、ホームページ、Facebook、LINE 公式アカウント など

【想定される関係部署】

文化・広報部、まちづくり委員会、駐在所、市役所 など

③歴史文化伝承事業

岡田地区の地理や歴史を知って、ふるさとに対する愛着がもてる取り組みを進めます
たとえば、ふるさと探訪など

【想定される関係部署】

文化・広報部、地域交流部、市役所

IV 健康に暮らせるまち

心とからだの健康づくり、生活環境改善・生活支援活動を通じて、丸亀市と協力しながら住民一人一人が生き生きと暮らしていけるまちをめざします



①生活環境改善事業

季節の花壇づくりや、緑のカーテン普及などの地域の緑化推進、一斉清掃、土器川清掃で生活環境向上のための取り組みを進めます

たとえば、緑のカーテン普及などの地域の緑化推進、岡田ふれあい広場維持管理、コミュニティセンター緑化

【想定される関連部署】

生活環境部、まちづくり委員会、環境保全公社、市役所、国土交通省

②高齢者等支援事業

福祉関係者や自治会と連携して高齢者等へ声かけや見守りをして、みんなが住み慣れた場所で暮らしやすいと感じる取り組みを進めます

たとえば、生き生きサロン活動支援、移動サービスおでかけ便、福祉関係者研修、介護予防講座 など

【想定される関連部署】

地域福祉部、まちづくり委員会、市役所、社会福祉協議会

③健康づくり事業

幅広い年齢層が楽しめるニュースポーツや健康体操を広めるとともに、心と体の健康維持増進を図る取り組みを進めます

たとえば、健康増進教室、世代間交流スポーツ大会、落語等のお笑い、健康ウォーク、料理教室 など

【想定される関連部署】

健康増進部、地域交流部、食生活改善推進協議会、生活研究グループ、スポーツ推進委員連絡協議会、体育協会、市役所



V みんなでつくるまち

それぞれの興味・関心に応じて学び続けられる機会や個々の力を地域に生かせる機会を設けるなどして、丸亀市と協力しながら住民一人一人が生きがいをもって暮らすことできるまちをめざします



①生涯学習推進事業

生涯学習講座を開設したり、生涯学習クラブの紹介をしたりして、学び続けることの楽しさを感じられるような取り組みを進めます

たとえば、「暮らし生き生き生涯学習」冊子製作、地域の人材発掘 など

【想定される関係部署】

文化・広報部、地域交流部、まちづくり委員会、市役所

②地域ボランティア育成事業

関係団体や連合自治会とともに地域活動の担い手を確保する取り組みを進めます

たとえば、イベント協力ボランティア、学校支援ボランティア、緑化推進ボランティア など

【想定される関係部署】

まちづくり委員会、連合自治会、社会福祉協議会、市役所

コミュニティ活動は、ボランティアによる運営が基本であるだけに、実働できる人をどう確保するかが一番のポイントだと考えられます。

自分のもっている力を少しだけ他の人のために役立てる、みんながそういう気持ちをもって生活していけば持続可能な組織となり、持続可能な地域となっていくはず



みんなで知恵を出し合い、力を合わせてよりよい岡田地区をつくっていきましょう。

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)



資料編



おかだ未来会議委員(第3期岡田コミュニティまちづくり計画策定委員)

	氏名	所属及び職名	備考
1	土岐正宏	岡田コミュニティ・岡田校区連合自治会 会長	
2	白杵 實	岡田コミュニティ 副会長	人権擁護委員
3	安川俊夫	岡田コミュニティ 副会長	
4	宮武浩一	岡田コミュニティ・岡田校区連合自治会 副会長	
5	大林 滋	岡田校区連合自治会 副会長	
6	雁藤 美恵子	岡田コミュニティ総務部 部長	民生委員
7	大林直江	岡田コミュニティ福祉部 部長	福祉ママ
8	柁木幸三	岡田コミュニティ育成環境部 部長	民生委員
9	森川照久	岡田コミュニティ安全部 部長	防災士
10	鈴木 修	岡田コミュニティ体育部 部長	
11	岩崎 勲	岡田コミュニティ長生部 部長	岡田上第一長生会
12	三宅健介	丸亀市立岡田保育所保護者会 会長	
13	澤野 真裕美	丸亀市立あやうたこども園PTA 副会長	
14	千代保幸	丸亀市立岡田小学校PTA 会長	
15	山地赫子	岡田婦人会 会長	岡田コミュニティ理事
16	野田絹代	民生委員 岡田地区代表	岡田コミュニティ書記
17	土屋美紀	福祉ママ 岡田地区代表	
18	楠本友子	岡田愛育班 班長	
19	石動朋子	丸亀市体育協会岡田支部 支部長	
20	岩崎雅彦	岡田大好き隊 代表	
21	馬場広貴	丸亀市スポーツ推進委員連絡協議会	
22	金澤明美	丸亀市立岡田保育所 所長	
23	逸見美智子	丸亀市立あやうたこども園 園長	
24	佐々木 徹	丸亀市立岡田小学校 校長	岡田コミュニティ理事
25	横山 融	NPO法人あやうた 副理事長	学識経験者
26	加藤正員	丸亀市議会 議員	学識経験者
27	土居正信	元香川高等専門学校 教授	学識経験者・防災士
28	竹林輝彦	丸亀市市民生活部市民課 副課長	丸亀市地域担当職員 (まちづくり担当)
29	佐藤桃音	丸亀市市民生活部生活環境課 主事	丸亀市地域担当職員 (まちづくり担当)
30	藤井 聖	丸亀市総務部税務課 主任	丸亀市地域担当職員 (防災担当)
31	小野朋美	丸亀市健康福祉部健康課 主任	丸亀市地域担当職員 (保健担当)
32	助安朋子	丸亀市社会福祉協議会地域福祉課 主事	丸亀市社会福祉協議会 地域担当職員
33	引田真人	岡田コミュニティセンター 所長	事務局
34	土方実加	岡田コミュニティセンター まちづくりプランナー	事務局



岡田地区の概要

位置と現状

岡田地区は香川県のほぼ中央に位置し、地形は南に高く、北に緩やかに傾斜した台地状になっており、比高差10～15メートルで丸亀平野に接しています。

東には讃岐七富士のひとつ堤山があり、西は西山と1級河川である土器川が隣町と境しています。また、南は綾歌三山(城山、猫山、大高見峰)が連なり、北には飯野山(讃岐富士)を望むことができます。

気候は温暖で災害も少なく、自然環境や自然条件に恵まれた地域です。また、南部山地を除く平坦部には農地が広がり、ほぼ全域が農業振興地域に指定された農村地帯です。台地上を流れる小河川は随時せき止められ、そこには多くのため池が築かれています。

地区内には平成22年11月に全線4車線化された国道32号線があります。また、平成27年3月に国道438号線岡田バイパスが供用を開始しました。県内唯一の私鉄である「ことでん」とともに県内の主要都市とは比較的短時間で行き来できる環境にあります。

歴史

地区内は古くから人々の生活の場として開け、各所から住居跡、土器片などの遺物が出土しており、その起源は旧石器時代にまでさかのぼることができます。

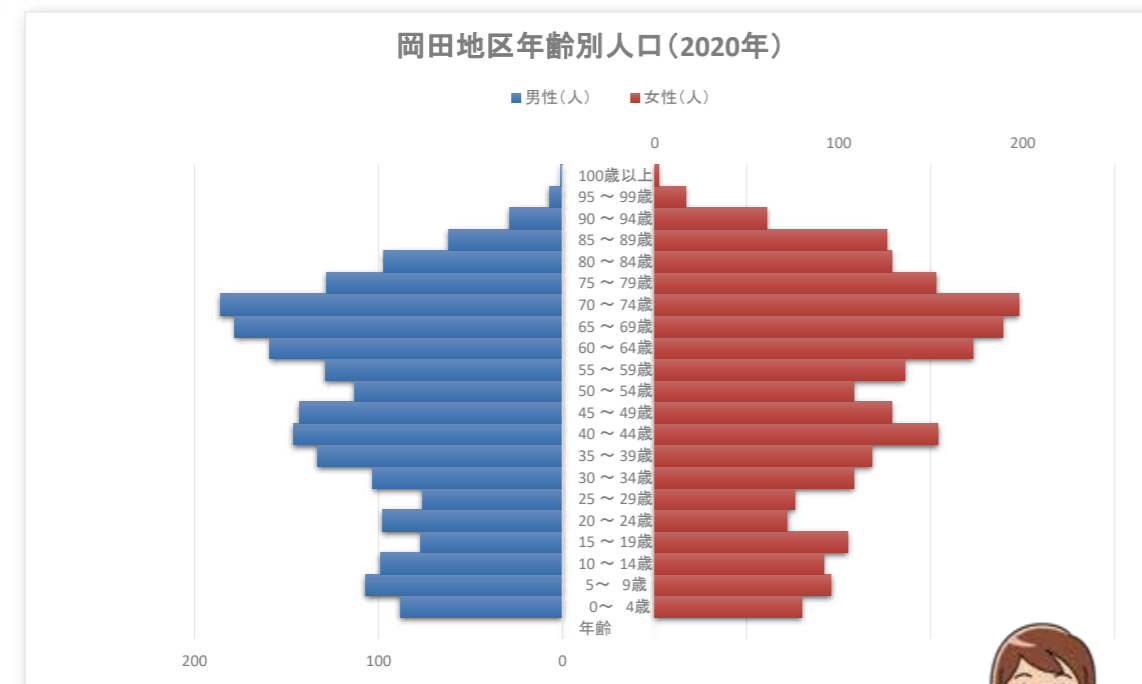
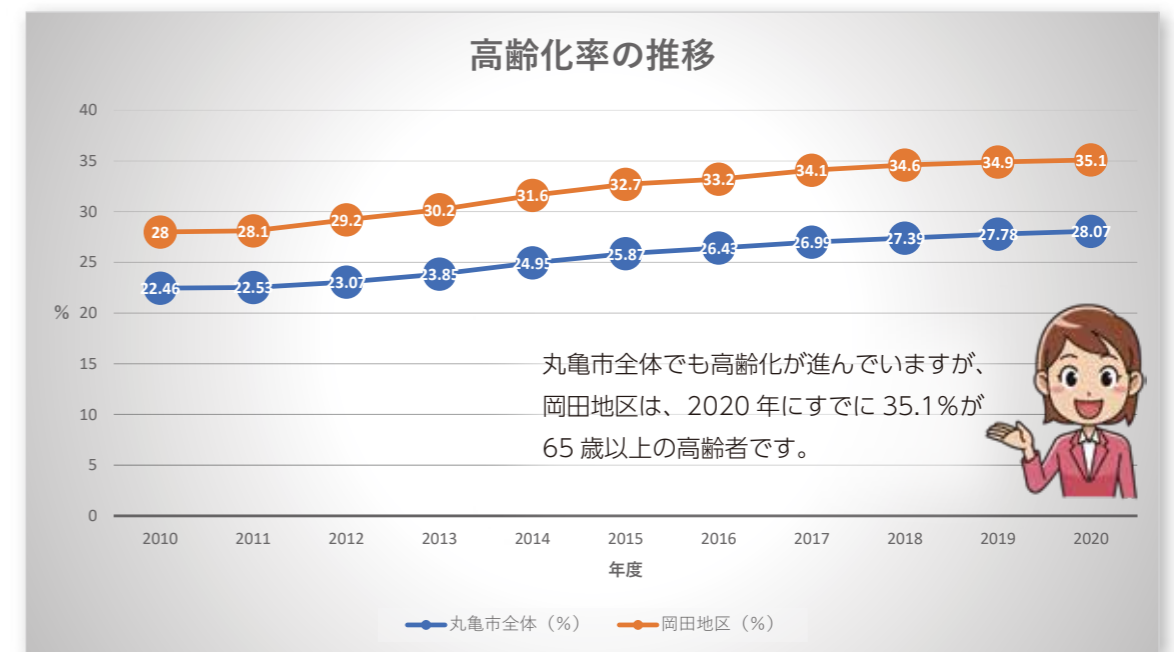
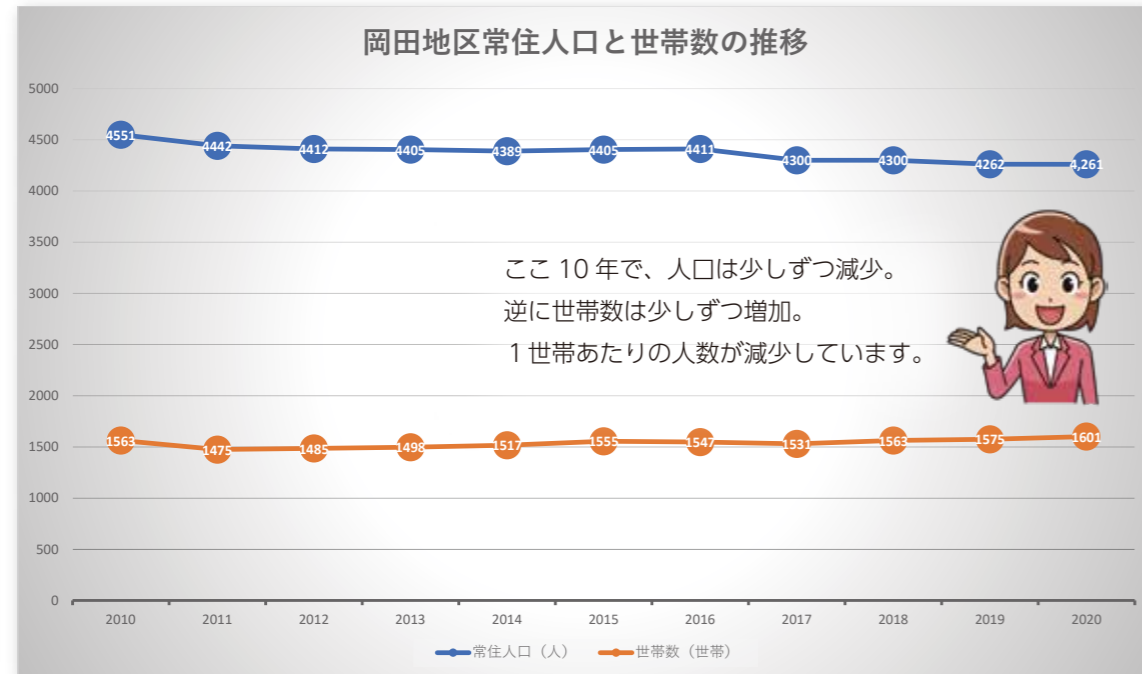
平安から室町時代にかけては「井上郷」に属し、戦国時代には「岡田里」、江戸時代のはじめは「岡田郷」と表記されて一つのまとまった地域となっていました。

「井上郷」を連想する「井ノ岡」、「岡田」を冠した「岡田神社」「岡田廃寺」「岡田万塚」、廃寺跡を伝える「徳善寺」「蓮光寺」「岡田廃寺」「成願寺」、開発領主名を思わせる「俊正」「重永」「重光」「森俊」などの地名は、いずれも岡田上から岡田西にかけての大東川本流域に広がっており、この地の開発が西部から進んだことを示しています。

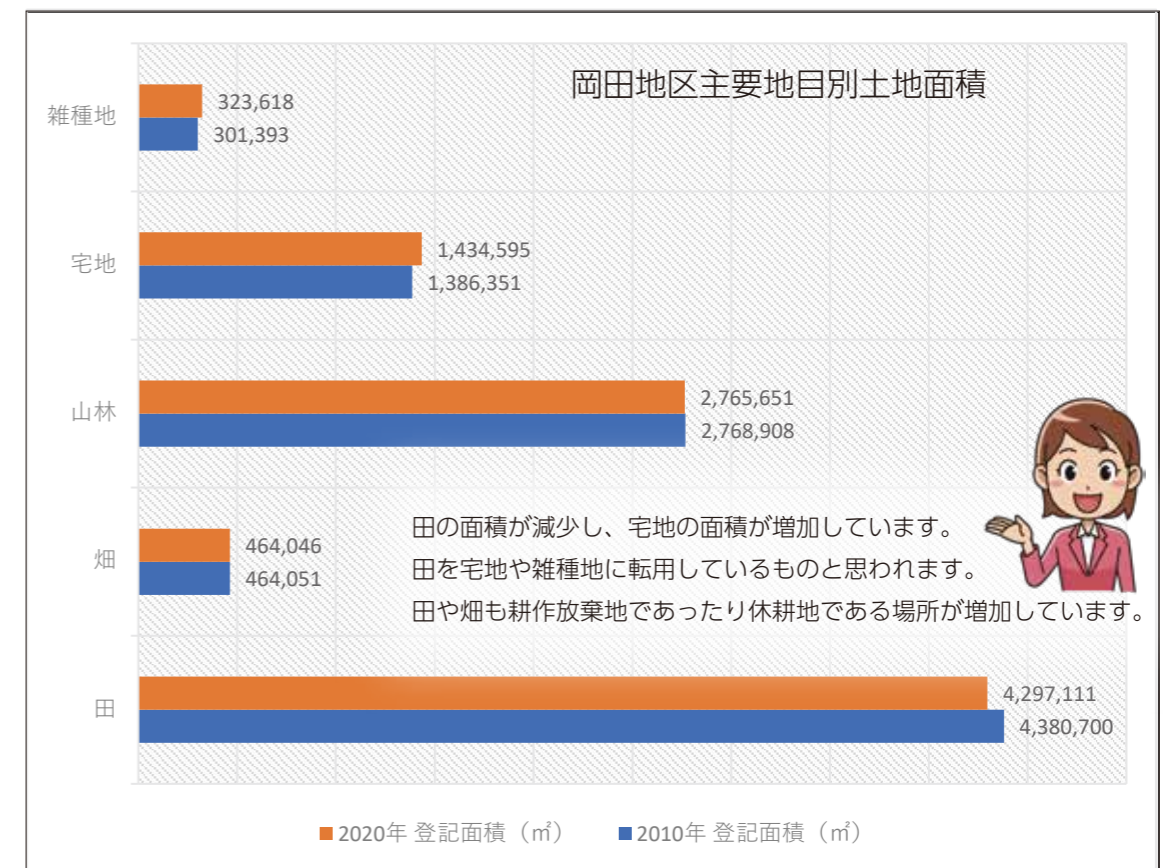
江戸時代に入って「岡田郷」は生駒氏の領地から1642年高松藩領となり、岡田上、岡田下、岡田東、岡田西、の4か村に分村して統治が行われ、明治維新を迎えることとなります。明治22年には、更にこの4か村が合併し、岡田村となりました。

昭和34年4月1日には、隣村の久万玉村と合併して綾歌町となり、この綾歌町も平成17年3月22日に丸亀市、飯山町、と合併して新しい丸亀市の一部となり、現在に至っています。

数字で見る岡田地区



岡田地区は、高齢者の割合が高い状態が続き、
今後も少子高齢化が進むと考えられます。



公共施設

地区内には、岡田コミュニティセンター、岡田小学校、あやうたこども園、岡田保育所、丸亀警察署岡田駐在所、桜谷聖苑、綾歌森林公園多目的管理棟があります。

また、岡田ふれあい広場、鴻ノ池公園、打越やすらぎ公園、綾歌森林公園、綾歌総合運動公園、綾歌土器川公園があります。

岡田ふれあい広場は、岡田幼稚園跡地公園として令和元年に整備され、公募で名称が決まりました。



神社・仏閣

- 岡田上 … 池之宮神社、美古神社、皇子神社、八坂神社、枚岳（ひらおか）神社、室塚神社、水分（みくまり）神社、片山神社、延命寺、法城寺
- 岡田下 … 宇閑（うべ、うえ）神社、恵美須神社、慈光寺、西覚寺
- 岡田東 … 椎尾神社、下土居神社、
- 岡田西 … 岡田神社、棕（むくのき）神社、皇子神社、光照寺 等があります。

詳細は、岡田コミュニティホームページ【久次郎さんのおかだまちあるき】をご覧ください。



<http://okada-community.main.jp/machiaruki/index.html>



古代の遺跡

岡田台地上には、古墳時代の各時期に多くの古墳が築かれており、現在もそのいくつかが残っています。

古くは、南部山林に弥生時代に築かれた墳丘墓があることから、他地域と比較しても古くから権力者により治められた先進的な地域であったと考えられています。

古墳時代に築かれたものとしては、岡田西の新池西側に、巨大な前方後円墳である【車塚】があります。これは、古墳時代前期（4世紀頃）に築かれたもので、当時、付近に巨大な勢力があったことがうかがえます。

古墳時代中期には、新池の周辺に中小円墳が数多く築かれており、その数は100基近くであったようで、岡田万塚と称されています。

古墳時代後期には、横穴式石室を持つ古墳が築かれるようになり、岡田上の西打越、津森に平石古墳群や津森穴薬師古墳などがあります。また、岡田東の仁池西の北原付近に北原古墳などが確認されています。



車塚



平石3号墳玄室



津森穴薬師古墳玄室

丸亀市指定遺跡

岡田地域の南部は城山（しろやま）がそびえ、丸亀平野の南の端にあたります。

城山は標高 375.1m。山頂からは丸亀平野、瀬戸内海、岡山県、愛媛県、屋島、満濃地域などを眺望することができます。

この絶好の立地を活かし、中世城郭である西長尾城が築かれました。西長尾城は 1368 年～ 1579 年に長尾大隅守一族、以降 1585 年まで国吉甚左衛門が城主を務めました。

山中には、連郭式曲輪列や空堀など多くの遺構が残されています。西長尾城は、国吉城、長尾城とも称されています。

西長尾城跡は、丸亀市指定遺跡となっています。（平成 16 年 9 月 27 日指定）



西長尾城跡連郭式曲輪列



西長尾城跡堀切

無形文化財

温暖な気候に恵まれた岡田は、降水に恵まれず、日照りにより耕作地を潤す水の確保に苦勞を強いられてきました。

寛永3年(1626年)の大飢饉や農民の水争いを目の当たりにした大庄屋・岡田久次郎は、水田の少ない岡田に水を引く計画を立て、炭所に適所を見つけると巨額の私財を投じて岡田の荒地に水を引き、米のとれる土地にしようと決意、2年の歳月をかけて亀越池を築造(1633年9月完成)し、岡田の地を潤しました。



岡田おどりは、久次郎の遺徳を偲んで踊ったのがその始まりといわれ、戦前まで「岡田盆楽会」として伝承されてきました。その後一時中断しましたが、戦後に復活。「岡田おどり保存会」により継承され、小学校の運動会や岡田久次郎まつりでも踊られています。

毎年、久次郎の業績を称え亀越池土地改良区と地元俊正地区の人たちの有志によって法会が行われ、その功績を語り継いでいます。

岡田おどりは、市指定無形民俗文化財に指定されています。(昭和47年11月1日指定)

久次郎さんとして岡田地区内外から親しまれているゆるキャラは、岡田久次郎にちなんだものです。

ため池

香川県は全国でもため池の密度がもっとも高く、約14,000か所のため池があります。

香川県は、降水量が少なく河川が短くて急こう配であるため、農作物の生産には、ため池はなくてはならない存在でした。岡田地区内でも、名前のあるため池は約80か所あります。



岡田のため池一覧(貯水量ベスト20)

番号	池名	所在地		貯水量(千m ³)	かんがい面積(ha)
0	亀越池	まんのう町長炭		958.0	543.0
①	小津森池	東	小津森	545.0	145.0
②	打越下池	上	西打越	249.0	230.0
③	打越上池	上	西打越	194.0	230.0
④	為久池	東	上新開	82.5	26.0
⑤	西池	上	平塚	48.5	47.0
⑥	皿池	上	重永	47.5	21.0
⑦	今滝池	上	今滝	44.0	36.0
⑧	成願寺池	西	重光	40.0	19.0
⑨	猫谷池	上	津森	32.0	15.0
⑩	天神池	上	市地	30.0	30.0
⑪	宮池	上	池の内	28.8	19.0
⑫	札谷池	上	津森	28.1	10.0
⑬	射場池	上	射場	22.2	4.5
⑭	北原池	東	上新開	22.0	16.0
⑮	源田池	西	森俊	17.8	11.0
⑯	河内谷中池	上	国吉	12.0	4.0
⑰	宮池下池	上	平尾	11.5	6.5
⑱	菰池	上	西射場	11.1	1.6
⑲	奥泉下池	下	天神甲	10.8	40.0
⑳	椎尾池	東	椎尾	9.6	16.0

注：亀越池はまんのう町にあります。

讃岐のため池誌(平成11年調査)参照

年中行事

古くから伝えられてきた行事、新しく定着してきている行事

- 正月の行事 ・氏神参拝・成人式・出初め式・書き初め・鏡開き・とんど焼き
- 春の行事 ・節分・雛祭り・端午の節句・社日・神社春市・百々手
・コミュニティまつり・校区運動会・久次郎まつり
- 夏の行事 ・用水浚え・池のコル抜き・七夕祭り・灯籠流し
- 秋の行事 ・敬老会・秋の大祭・うま節句・岡田久次郎法会
・池之宮神社祈願祭・社日
- 冬の行事 ・消防夜警・餅つき・冬至・除夜の鐘・お日待ち

とんど焼き 正月飾りやしめ縄、古いお札などを燃やす正月行事。
この火でもちを食べると一年中健康でいられるとされる。

百々手 (ももて) 春を告げる神社の伝統行事。百本を超える矢を放ち、五穀豊穡、厄除け等を祈願する。

池之宮神社祈願祭 祭神は高禰神 (たかおかみ)・天水分神だが、岡田久次郎と木村甚三郎の二氏の霊を合祀し、その遺徳を偲んで祈願している。(秋分の日)

お日待ち 旧暦1・5・9月の15日に神社(荒神さん)に集まり、神の傍で夜を明かして日の出を待ち拝む。生活のほとんどが自然の力に委ねられていた時代、太陽を「お日様」と呼び、その恵みに感謝した。



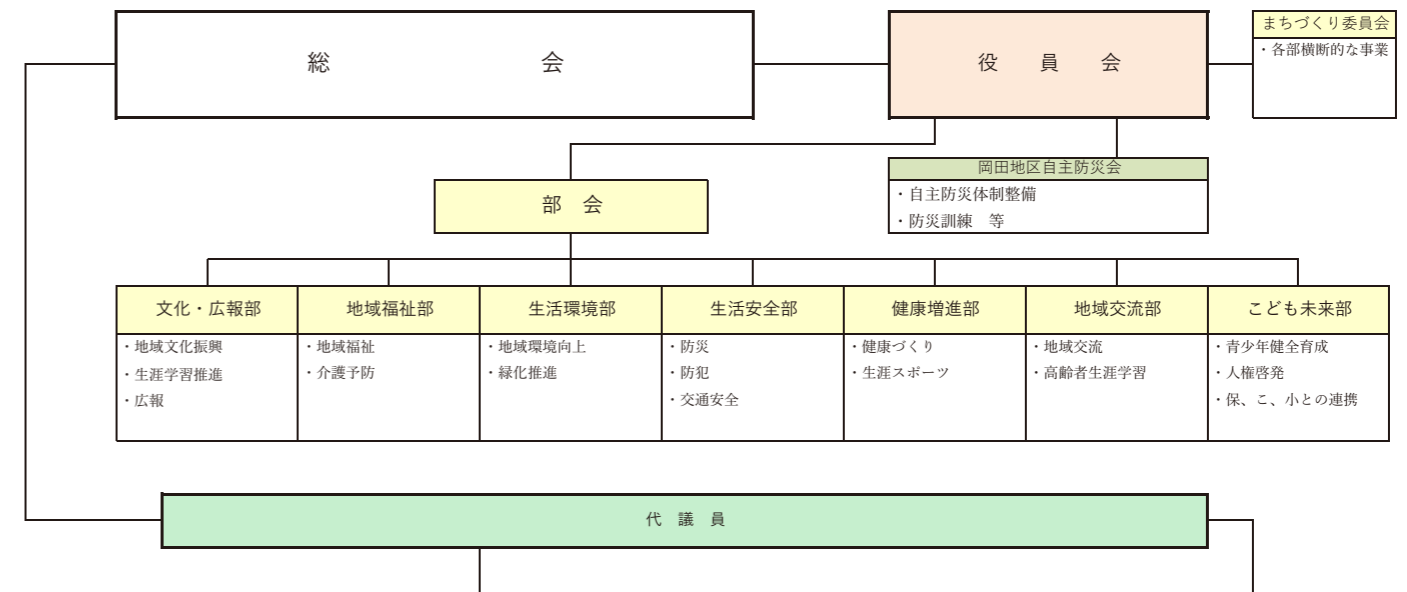
岡田の歴史年表

西 暦	年 号	郷土 (おかだ) の出来事
1633年	寛永10年	岡田久次郎亀越池を築く
1672年	寛文12年	矢延平六、小津森池を築く
1682年	天和2年	矢延平六、滝鼻出水を完成させる
1829年	文政12年	打越池完成 (木村甚三郎)
1854年	安政元年	讃岐に大地震があり人家被害3000余戸
1867年	慶応3年	ええじゃないかの騒ぎがおこる
1874年	明治7年	赤坂・東岡・咲屋・宮北に小学校を設置
1876年	明治9年	岡田郵便局設置 (岡田東村)
1879年	明治12年	赤坂・咲屋小学校を統合し環池学校を設立
1887年	明治20年	環池・宮北・東岡小学校を統合し岡田小学校を設立
1889年	明治22年	岡田上村・岡田下村・岡田東村・岡田西村が合併し、岡田村となる
1896年	明治29年	
1898年	明治31年	警察岡田分署設置
1905年	明治38年	美合・造田・長炭・岡田4か村組合設立 岡田高等小学校開設
1906年	明治39年	組合立岡田高等小学校を廃止し岡田尋常高等小学校設立
1910年	明治43年	岡田農業補習学校設立
1914年	大正3年	岡田小学校6年制となる
1919年	大正8年	綾歌郡立飯山農学校創立
1931年	昭和6年	岡田小学校校舎増築
1936年	昭和11年	岡田農業補習学校を岡田国民学校と改称
1941年	昭和16年	亀越池増築に着手 (県営)
1945年	昭和20年	国民学校令により小学校は国民学校となる
1946年	昭和21年	高松空襲により県庁焼失の為、岡田国民学校に県庁舎を疎開
1947年	昭和22年	南海大地震が発生する (12月21日)
1948年	昭和23年	国民学校は小学校となり、新制中学校発足
1950年	昭和25年	農業協同組合、農業共済組合設立
1951年	昭和26年	岡田幼稚園設置
1953年	昭和28年	飯山高校岡田分校を岡田中学校に併置
1954年	昭和29年	県営土器側右岸土地改良区設立
1956年	昭和31年	岡田保育所設置
1957年	昭和32年	岡田小学校で味噌汁給食開始。岡田小学校舎 (3階建て) 着工
1958年	昭和33年	岡田小学校、完全給食を実施
1959年	昭和34年	岡田小学校竣工 (1959年落成記念祝賀会)
1960年	昭和35年	久万玉村と岡田村が合併して綾歌町になる
1963年	昭和38年	綾歌町商工会設立 有線放送開始

岡田の歴史年表

西暦	年号	郷土（おかだ）の出来事
1964年	昭和39年	飯綾葬祭組合設立
1965年	昭和40年	綾歌町学校給食センター開設
1966年	昭和41年	綾歌中学校舎完成
1967年	昭和42年	岡田幼稚園園舎・プール完成
1969年	昭和44年	高松・琴平間の県道が国道32号線となる
1972年	昭和47年	綾歌町史編纂事業始まる
1973年	昭和48年	飯綾消防組合設立 綾歌町章を公募により決定 岡田おどり保存会発足
1974年	昭和49年	第1回綾歌まつり開催
1977年	昭和52年	岡田小学校百年祭挙行
1978年	昭和53年	綾歌町役場庁舎完成
1979年	昭和54年	岡田保育所完成
1980年	昭和55年	綾歌町の人口が1万人を突破
1982年	昭和57年	第1回「ふるさとまつり」開催
1990年	昭和61年	岡田小学校プール完成
1988年	昭和63年	湯舟道完成
1991年	平成3年	レオマワールド開園
1993年	平成5年	東四国国体炬火リレーに小中生参加
1995年	平成7年	中讃大規模農道が県道278号となる
1996年	平成8年	総合文化会館「アイレックス」完成
1999年	平成11年	桜谷聖苑完成
2001年	平成13年	「おでかけバス」運行開始
2002年	平成14年	「保健福祉センター」完成
2004年	平成16年	「ニューレオマワールド」リニューアルオープン
2005年	平成17年	新丸亀市発足 あやうた幼稚園創立 岡田コミュニティ設立
2006年	平成18年	岡田コミュニティセンター竣工
2008年	平成20年	国道32号バイパス全線開通
2013年	平成25年	岡田小学校新校舎落成
2015年	平成27年	国道438号岡田バイパス供用開始
2016年	平成28年	第1回おかだ kira ² 夏まつり開催
2019年	令和元年	岡田幼稚園跡地公園整備完了
2020年	令和2年	岡田幼稚園跡地公園 公募により名称を【岡田ふれあい広場】に決定 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第7回岡田コミュニティまつり、第5回おかだ kira ² 夏まつりが中止となる

岡田コミュニティの組織



岡田校区連合自治会 <各自治会1名ずつ>				関係機関・団体等<〇つき数字が人数>	
岡田上	岡田下	岡田東	岡田西		
・打越上・打越下 ・打越東・河内 ・市地東・市地西 ・延命寺・片山 ・赤坂東・赤坂西 ・赤坂団地・津森 ・平尾・射場 ・国吉・札谷 ・平塚東・平塚西 ・平塚団地 ・室塚・俊正 ・西山上・西山下 ・原村・原村西 ・原村西下・原村西中 ・TYMS(原村)	・天神東・天神西 ・天神下 ・桜ヶ丘上 ・中央上・中央下 ・中央西 ・中新田上・中新田下 ・咲屋・小権尾 ・宿母・N I I G ・グリーンハイツ ・ケアハウス綾歌	・小津森東・小津森西 ・一本木東・一本木西 ・椎尾 ・北原東・北原西 ・上新開 ・下新開東・下新開西 ・下土居・日下団地 ・岡田東団地1 ・岡田東団地2 ・はなふさ	・井岡東・井岡西 ・田中・田中団地 ・畑田上・畑田下 ・重光・のぞみヶ丘東 ・のぞみヶ丘西・滝の鼻 ・向王子・向王子団地 ・成願寺上・成願寺下 ・北山・森俊東・森俊西 ・東原・岡田西団地 ・西新田1・西新田2 ・西新田4・コスモス	*民生委員・児童委員③ *地域安全推進委員① *丸亀市消防団第13分団② *丸亀市文化協会① *保護司① *身体障害者福祉連合協会① *食生活改善推進協議会① *JA香川県岡田支店① *綾歌中学校PTA② *あやうた子ども園PTA② *岡田校区子ども会② *みんなで子どもを育てる県民運動推進員① *岡田小学校① *あやうた子ども園① *岡田警察官駐在所① *学識経験者①～③	*岡田地区長生会(7地区)⑦ *交通安全協会岡田支部① *香川県防災士会中讃支部② *丸亀市文化財保護協会① *人権擁護委員① *福祉ママ① *生活研究グループ① *市飯綾商工会綾歌支部① *岡田小学校PTA② *岡田保育所保護者会② *スポーツ推進委員連絡協議会① *綾歌中学校① *岡田保育所① *綾歌三山愛好会①
31	15	15	23	45~48	



岡田コミュニティ各部の名称と事業内容

部の名称	事業内容 *は、想定される事業	関係団体
文化・広報部	地域文化振興、生涯学習推進、広報 *コミュニティだより *生涯学習クラブ紹介等 生涯学習推進 *ふるさと発見等文化講座 *広報全般（ネット発信含む）	岡田校区連合自治会 丸亀市文化協会 丸亀市文化財保護協会
地域福祉部	地域福祉、介護予防 *高齢者等支援、敬老事業企画 *子育て支援 *助け合い（共同募金）	岡田校区連合自治会 民生委員・児童委員 福祉ママ 岡田愛育班 身体障害者福祉連合協会
生活環境部	地域環境向上、緑化推進 *環境保全、リサイクル *地域緑化	岡田校区連合自治会 綾歌三山愛好会
生活安全部	防災、防犯、交通安全 *自主防災 *まちの安全	岡田校区連合自治会 地域安全推進委員 交通安全協会岡田支部 丸亀市消防団13分団 香川県防災士会中讃支部
健康増進部	健康づくり、生涯スポーツ *生涯スポーツ推進 *健康増進	岡田校区連合自治会 丸亀市スポーツ推進委員連絡協議会 丸亀市体育協会岡田支部
地域交流部	地域交流、世代間交流 *地域交流 *高齢者生涯学習、健康維持	岡田校区連合自治会 各長生会 食生活改善推進協議会 生活研究グループ
こども未来部	青少年健全育成、人権啓発、保・こ・小との連携 *人権教育研修 *学校等支援調整 *学校運営協議会	岡田校区連合自治会 保育所・こども園・小学校 PTA 人権擁護委員 保護司会 岡田校区子ども会 みんなでこどもを育てる県民運動推進員
まちづくり委員会	各部横断的な事業 *コミュニティまつり、おかだ kira ² 夏まつり等の大規模イベント *移動サービスおでかけ便 *あいさつ運動 *こども安全パトロール *岡田地区自主防災会 *敬老事業	岡田校区連合自治会



岡田コミュニティホームページ



岡田コミュニティ Facebook ページ



LINE
公式アカウント

令和3年4月1日発行

編集 おかだ未来会議
(第3期まちづくり計画策定委員会)

発行 岡田コミュニティ

〒761-2402 香川県丸亀市綾歌町岡田下516-1
TEL/FAX(0877)86-3001

